

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1882号 2007年07月17日(火)

## 《 very close to 14,000 》

今週は月曜日が日本のお休みで、火曜日の今日は海外市場が既に始まっていますから、その動きや、残る期間の注目点を対象に短めに。

ニューヨーク株価の勢いが週をまたいで続きました。先週ダウで300ドル近く上げた後ですが、週明け16日のニューヨーク市場でもダウは史上初めて14000ドルに「あと10ドル」に接近する場面もあった。引けは高値からは反落して43.73ドル高の13950.98ドル。市場全般は下げる銘柄が多く、NASDAQやSP500は下げたものの、ダウ構成30銘柄の上げ基調は続いた。引値はダウにとっての史上最高値。これで三日連続の高値更新。

ここに来てのニューヨーク株価、特にダウの上げに関してはいろいろな見方がある。例えば、市場の売り残が異常に積み上がった結果の踏み上げだというもの。市場内部要因に基づくものだが、外部要因的にはM&Aの動きの活発化（ボーダフォンの対ベライゾン買収報道など）、米経済の下半期にかけての回復期待、そして今週から本格化する米企業の業績への期待など。基本的には世界的な資金の行き場探しが続く中で、株が見直されていると言うことでしょう。

既に原油はバレル70ドル以上の水準にあり、トウモロコシなど農産物価格も高値ピークを過ぎた。債券相場には下げ圧力が世界的にかかっている。世界経済の“30年ぶりの強い拡大”（IMF、G7、サミットなどの声明）の中で、企業業績に対する期待は高い。今週は企業業績発表が重なるため高値警戒感が強まる可能性が強いが、不動産も世界各国で上げたあとだけに、「世界的に高い流動資金」の受け皿としての世界株式市場の高値追いはまだ続くでしょう。

株が動いた割には、債券相場は横ばいでした。株を買うために債券売りが出たという兆しがないということです。しかし債券相場は今週発表される物価指標で大きく動く可能性がある。ドルは引き続き弱い。6月から今月これまでのユーロ・ドル相場の動きを見ると、小規模の巻き戻し局面を入れながらも、一貫してドル安・ユーロ高が続いている。具体的には1.32ドル台から1.37ドル台へ。息の長いユーロ高の動きである。

欧州経済の好調、そして欧州での金利一段高見通しがユーロ高の背景だが、ポンドと含めてかなり良いところまで来たという印象はする。円安ドル安の当面の動きを予測する向

きもあるが、最近の動きは円安を含めてやや一方的な印象もする。

今週の主な予定は以下の通りです。

7月17日(火)	5月第3次産業活動指数 6月首都圏マンション販売 米6月生産者物価 米6月鉱工業生産・設備稼働率 米7月NAHB住宅市場指数 6月北米半導体製造装置BBレシオ 韓国市場休場
7月18日(水)	5月景気動向指数(改定値) 米MBA住宅ローン申請指数 米6月消費者物価 米6月住宅着工件数 米6月建設許可件数 バーナンキ米FRB議長議会証言(～19日、経済見通し・金融政策に関する証言、FRBの半年次経済見通しも発表)
7月19日(木)	5月全産業活動指数 6月全国百貨店売上高 ECB理事会 米6月コンファレンスボード景気先行指標総合指数 米7月フィラデルフィア連銀指数 FOMC議事録(6月28日開催分)
7月20日(金)	6月コンビニエンスストア売上高 米セントルイス連銀総裁講演

既に触れたが、今週はアメリカの物価統計が相次いで発表される。17日に生産者物価、18日に消費者物価。当面の米金融政策は短期金利の誘導目標という点では「据え置き」観測が強いが、その期間を占う上でも発表される数字とその中身は重要である。

同じように重要なのは、18、19日の両日に上下両院で行われるバーナンキ議長の議会証言である。アメリカ経済の現状をどう見ているか、物価情勢に対する認識はどうかなどで注目される。景気の現状に関しては今年の初めに成長率の鈍化に見舞われたあと、米経済は設備投資や輸出に支えられて持ち直していると思われる。それをFRBとしてどう認

識しているかが注目。最近の小売り統計にも強いものが出てきて、先週のニューヨーク株価大幅反発の一要因は、大手小売店の実績が予想外に良かったことです。

バーナンキ発言は米長期債相場に影響を与える可能性がある。ということは、長期金利が変化する可能性があるということです。あと景況指数もいくつか発表になる。バーナンキ以外のFRB幹部、地区連銀トップの発言もある。

### 《 have a nice week 》

3連休はいかがでしたか。それにしても、どえらい3連休でした。最初の二日は台風、台風一過だと思ったら今度は新潟の地震。しかもかなり強い。食糧、水、電気、トイレなどが無いという。いくら先進国でもインフラがやられると現場はそれ以前の状態に戻る。現代社会の脆弱性の一面です。

台風はまだ日本列島に水をもたらしてくれる。例えば四国・香川の早明浦ダムは土曜日の昼頃には貯水率50%程度といていたのに、土曜日夕方には「100%」という報道。つまり満杯。台風は日本に水と緑をもたらす。メリットがあるのです。去年も早明浦ダムは台風一発で満杯になった。

しかし大きな地震は大きな被害をもたらすだけです。古い家をなぎ倒し、人間を下敷きにする。太平洋プレートとユーラシア・プレートがぶつかり合うところだからと言うだけでは、新潟の中越地方における地震の多さはあまりにも悲惨です。特にお年寄りが悲惨な目に遭う。動けませんから。死者もお年寄りが多い。

今の科学では、地下10キロ以上のところの出来事などどうしようもないのでしょう。出来ることと言えば、揺れても崩れない家を造ることぐらい。神戸の地震も直後に行き分かったのですが、家の古さがもろに都市の脆弱さに繋がる。今回の倒壊家屋を見ても、古そうな家が多い。今後の課題でしょう。

皆さんには良い一週間を。

*《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》*